平成３年度厚生省心身障害研究
「地域：家庭環境の小児に対する影響等に関する研究」

小児の対人関係の歪みに関する研究
（分担研究：小児の健康と養育条件に関する研究）

岡　宏　子（聖心女子大学）

要約：小児の対人関係の歪を、それをうみ出し進展させていく養育条件との関連においてとらえ、更にこの関連の仕方の把握から、歪みを是正し、健康な対人関係を育成する有効で具体的な実践に結びつく方途を見出そうと、この研究は進められた。分析の対象となったのは、養育相談に来所した親子、かかわりの歪みを思わせる保育園児及び、対照群としての健全グループ、と障害児群、計１３０組である。

各対象児について、まずケース事の詳細な症例分析から出発して、相互に共通したまたは形のことなる歪みの抽出、その型の分類、複雑な養育条件の類化と分析の作業を経て、両者の関連が求められた。その結果、歪みの行動が表出される型の差と、養育条件の特性及び四囲条件の関係の型との間には、いくつかの関係の型があることが見出され、この関係の型の把握が、同じく対人関係に問題があるとされた小児の行動改善や健康の育成を目ざしての、相談時の指導や保育の有効な方途と結びつくことが示唆された。

見出し語：かかわりの歪み、歪みの行動の型、養育条件の構造、対人行動と養育条件の関係

研究目的：社会環境の変化や少子化傾向を含む家庭構造やその中の育児機能の変化が基底にあって、対人関係に歪みをもつと思われる子どもが増えているといわれ、健全な子どもの育成に問題を投げかけている。他方、これらのかかわりに問題をもつ子どもの育成相談も増え、また、親に代わって小児の保育に当たる保育園でも、この問題にどのような対応が適切か、という具体的な方途が模索されている。このような事態に対して、単なる研究のための分析でなく、具体的な実践に結びつく、相談，保育のあり方を見出す目的を含めて、かかわりの歪みと養育条件との関連を分析し、相談や援助に際して、これらの関連をどう変えることが出来るかを見出すという、実際的目的をもっている。

直接の分析のねらいは、一つには、対人関係の歪みがあらわれる行動の特性をつかむこと、これら特性の構造を見出すこと、そのいくつかのパターンを把握すことにある。次には、養育条件についても、親の育児態度や子への実際的なかかわり方だけでなく、その子に抱く感情を妊娠と知ったときから追跡、裏にかくされた感情点、家族の協力や四囲の育児の支援者の存在といった四囲条件までチェックし、これらの環境条件を関連しあう分脈としてとらえる試みをする。その上で、この両者の関連を分析することによって、かかわりの歪みを引き起こした条件の特定を行なうことにある。

もう一つのねらいは、上記の目的を達成するために、現場の目による把握と、研究者の分析的態度を交叉させ、その相方を循環させることによって、必要な事項を研究者の目で落としてしまうことをさけると共に、現場の目が、主観的な把握に陥ったり、そのケースにはあてはまっても法則性をひき出すことにはならないという、問題を解決するような方法を確立する。と

いうのは、このようなねらいをもつことによってはじめて、具体的な指導の方途が見出されると思うからである。

研究方法：要約にふれたように、対象児は、養育相談の親子（主として先行的分析の対象となった）、及び保育園において対人関係に問題を感じるとされた2才～6才の幼児、対照群としての関わり方の好ましいと思われる健康群、障害児群の130組である。（協力保育園及記録者は後記する）

方法は、まず、ケース毎に詳細の症例報告の形式で、このために作製したケース原簿に、後述のまとめられた条件を含む家庭環境，親，及び其他の家族，家庭内の状況や特記事項，対象児の生育歴・発達の状態，等のフェースシートを構成する部分と養育条件と関係する環境条件を記載した上、対象児のかかわりの行動を中心とした具体的な行動を記載し、また、親の養育態度についても具体的な記述を行う。

次に、これらの記述を全員でたしかめてから、キイとなる行動，条件の抽出を行い、数度の訂正を終えて、具体的な記述を、共通の、チェックポイントを含む第二段階の整理用紙に記入していく。更にこの際に第一段階の原簿で、記載者夫々の観察点、把握の仕方のずれを訂正し、整理用紙記入の際に追加又は削除、又とらえ方の修正を行う。

更にこの整理用紙に集約された各項目について、各ケースの原記録をあてはめて採点して、量化の第一歩とする。各、チェックポイント項目毎に回答を量化するスケールを使い。量化を行う。これを行い得ない条件は特記事項として付加する。（整理用紙は表1～表5,特記事項は表8）（尚、紙数の関係上多くの部分をカットしたのでいずれ機会を見て、全てをまとめて印刷する予定である。）

このデータをもとに、環境条件の処理を終え、次で、子どもの行動特性についても、同じような処理を行い、具体的な行動から共通点として取り出した特性を、他の子とのかかわり，保母とのかかわり，感情の表出，衝動統制，情緒安定，固執性，攻撃性，依存・甘え，遊び，発達状態の各カテゴリー毎に、それを代表する具体的な行動を列記して、もう一度これにあてはめて、記録を整理しなおし、配点通りにチェックして量化とパターン化を行った。この手続き中のキイポイントとなる項目や事項は表6にまとめてあげてある。

なお、これらの全過程は、後述する協力者と当報告者である岡が、毎月会合を重ね、全てを相互にチェックしあい、記述からキイ用語の択び出し、もう一度記述に戻っての点検から、項目設定の整理用紙作製、行動や条件の量化まで相互に情報を交換しつつ、現場での把握を研究のための分析に耐える量化にまで、全員でチェックを行った。（特に最終的な量化された素表の完成に当たっては、合宿の上、夜半までこの作業を行った）この過程の重視が、現場の把握と研究者の目の交叉に大きな意味を果たしていて、操作により落ちこぼれる大きな条件のチェックがなされたと思う。

これらの結果を一覧表に作製し、後の分析、関連を求める作業の資料とした。

表１.フェースシート

通し番号	
ケース番号	
性別	
年齢	
兄弟姉妹の数	
出生順位	
父親の有無	
父親の国籍	
父親の年齢	
母親の有無	
母親の国籍	
母親の年齢	
主たる養育者	
障害についての分類	

表２.子どもに対する母親の感情的関係

妊娠と聞いてうれしかったか	
出産してうれしかったか	
この子を育てていて ・これまでこの子をかわいいと思ったか ・今この子を育てていてかわいいと思う	

か	
この子を育てていて不安を感じる事があるか	
この子に対して母自身は ・この子の性格が好きであるか ・この子の気持ちを受けとめているか ・この子のしぐさや話を見たり聞いたりするのがうれしいか ・この子に対しての表情が明るいか ・この子に対しての感情の起伏が安定しているか ・この子に対しての感情は愛情にあふれいるか	
子どもに対する母親の期待 ・この子に対する期待が強いか ・この子の教育に対して熱心であるか ・この子の自立に対して早く手がかからなくなって欲しいか ・この子の特定の行動への期待 （偉くなって欲しいと思っているか）	

表３.養育態度

	生活習慣 ・起床 就寝 ・食事 ・排泄 ・更衣 ・清潔	母親と子どもとのかかわり ・降園後家庭で ・家事をしている ・休日 ・登降園時 ・テレビ ・本を読む
機会場面 受　容 強　化 指示教示 阻止（－） 阻止（＋） 配　慮 叱　責 干　渉 人格を認めない		

表４.家庭環境

母の状態 ・健康状態はよいか ・精神発達障害の有無 ・家事をこなすことが器用か ・子どもと接する時間の有無	
父の状態 ・健康状態はよいか ・精神発達障害の有無 ・家事の手助けをするか ・子どもと接する時間の有無 ・育児への関心の有無	
育児の援助者 ・育児の手助けをしてくれる人が日常的にいるか ・緊急時に手助けをしてくれる人がいるか ・援助の申し出に対して受けるか	
周辺の環境 ・育児にうるさい人がいるか ・家に閉じ込もりがちか	
夫婦の関係 ・夫婦仲は安定しているか ・育児観の違いが気になるか ・夫婦間の連絡がスムースであるか	
保育園との関係 ・保育園に預けたことに対していいと思っているか ・保育者との関わりはうまくいっているか ・保育者のアドバイスを聞くか	

表５.母の性格特性

外向性・協調性 気丈，解放的，外向的，地味，テキパキ 明るさ・優しさ 素直，明るさ，控えめ，優しさ，温和 感性 のんびり，あっさり，繊細，我慢強さ き帳面 自立 自立，器用，関心，協調性，自尊心	

表６.子どもの行動特性

＜１＞感情・要求の表出

1.話をしたり挨拶をするとき目が合いますか

2.表情が明るいですか

3.友達といるときまたは好きな遊びをしているとき楽しそうですか

4.思い通りにならないと泣き叫ぶとか地団駄を踏むなどしますか

5.楽しいことや悲しいことがあっても顔に出せませんか

＜２＞衝動及びその統制

1.製作などがうまくできないと投げ出したりこわしたりしますか

2.思い通りにならなくても気持ちを切り替えられますか

3.興奮しやすいですか

4.やりたいことがあると我を張りますか

5.緊張が強かったり、体を硬直させて怒ったりしますか

＜３＞情緒の安定

1.気分にムラがありますか

2.絶えず動き回っていて落ち着きがないですか

3.知らない人や場所で緊張するといつもと違った行動をしますか

4.我慢強い方ですか

5.怒ったり泣いたりしないで穏やかな方ですか

＜４＞固執性

1.特定の場所、空間（部屋の隅、ロッカーの中等）に好んでいるのことが多いですか

2.お気に入りの物がないと不安定になりますか

3.決まった事柄（順番、配置、やり方、色など）にこだわりますか

4.特定の人にこだわりますか

5.些細なこと（ちょっとした汚れ、失敗）にもこだわりますか

＜５＞攻撃性

1.友達が自分の思い通りにならないと叩いたりつねったりしますか

2.自分より弱い子どもに意地悪をしますか

3.他の子どもが使っている玩具を勝手に取ったりしますか

4.友達が遊んでいると邪魔をしますか

5.友達に対して訳もなく攻撃的な態度を取りますか（かむ,蹴る,つねる,髪を引っ張るなど）

＜６＞保母への愛着（＋）

1.保母に話しかけますか

2.保母を遊びに誘いますか

3.保母のお手伝いを喜んでしますか

4.保母の話を喜んで聞きますか

5.保母と目が合うとにっこり笑いますか

＜７＞保母への愛着（－）

1.保母の問いかけに答えませんか

2.保母に反抗しますか

3.保母に体に触れらるのをいやがったり逃げたりしますか

4.保母の前で緊張しますか（黙ったり、もじもじしたり不自然な行動になる）

5.保母をわざとぶったり叩いたりしますか

＜８＞保母への依存、甘え

1.保母にべたべたとまとわりついて甘えますか

2.保母が他の子をかまうとやきもちをやきますか

3.何かにつけ保母の承認を求めようとしますか

4.保母を独占したがりますか

5.友達と喧嘩をすると保母に助けを求めますか

＜９＞友達への愛着（＋）

1.友達のしていることに関心がありますか

2.好きな友達がいますか

3.友達と遊ぶのが好きですか

4.友達が集団で遊んでいるとき中に入っていけますか

5.困っている友達がいると手をかしてあげますか

＜１０＞友達への愛着（－）

1.他の子と手をつなぐのをいやがりますか

2.皆と一緒に何かをするとき一人だけ違うことをしていますか

3.他の子どもに関心がありませんか

4.友達を避けますか

5.友達から離れ一人で遊んでいますか

＜１１＞遊び

1.遊びのアイデアが豊富ですか

2.じっくりと腰をすえて遊びますか

3.友達の中でリーダーシップが取れますか

4.友達と遊具などを譲り合って遊べますか

5.友達が遊んでいるとき中に入れず、そこらを

うろうろしたりぼんやりしたりしていますか

<１２>発達状態

年齢からみて次の行動発達はどの程度ですか

	はやい	ふつう	おそい
食事			
排泄			
着脱衣			
運動機能			
理解力			
言語			

結果と考察：上記の操作を経て得た資料をもとに、(1).子どものかかわりの歪みのパターンの設定は、いかなるものとなったか。(2).養育条件のパターンとは？　又、親の養育態度と過程環境，四囲の関係は？　(3).(1)で見出されたかかわりの歪みのパターンと、(2)で把握された養育条件との関連には、どのようなものが見出されたか。(4).そして最後に、(3)で見出された両者の関連からは、最初に目的の一つに設定された、相談指導や保育の実際の方途を定める上に、どの様な示唆を与えることになったか。を、順次、結果の示すところから、考察していくことにしよう。

（１）　子どものかかわりの歪みのパターン設定は、どうなったか。前述のような手続きで、歪みの行動表現は、感情・要求の表出，衝動及びその統制，情緒の安定，固執性，攻撃性，保母への愛着(＋)，保母への愛着(－)，保母への依存・甘え，友達への愛着(＋)，友達への愛着(－)，の十のカテゴリーなかの5問ずつが、具体的な行動であらわされた整理表のチェックを通して量化され（表7）、問題のある子と対照群の歪みのない子の得点分布を比較したのが図1～図10である。（前述の如く、量群の対象児には差があるが、今回の研究では、あえてこのまま、－－歪みのある子のパターンを明確にするための対照とするだけの目的であるので－－百分比になおして比較することもしなかった）

表７.子どもの行動特性の各カテゴリーの平均及び標準偏差

		全体		歪み群		ノン歪み群		障害児群	
		平均	ＳＤ	平均	ＳＤ	平均	ＳＤ	平均	ＳＤ
感情の表出		9.46	3.52	8.51	2.96	12.71	2.00	2.75	2.05
衝動の統制		7.28	3.97	6.17	3.59	10.39	2.99	5.00	4.64
情緒の安定		6.88	4.24	5.44	3.50	11.06	2.87	2.75	3.63
固執性		5.81	4.38	6.91	4.14	2.39	2.72	10.75	3.49
攻撃性		4.61	4.81	5.99	5.05	1.48	2.20	2.00	0.71
保母(＋)		9.42	4.56	8.42	4.47	12.87	2.08	2.25	1.09
保母(－)		4.49	3.20	5.29	3.08	2.19	2.31	6.50	2.18
依存・甘え		6.14	4.45	6.88	4.68	4.77	3.43	2.25	0.83
友達(＋)		8.68	5.02	7.22	4.61	13.35	1.86	1.00	0.71
友達(－)		5.99	4.00	7.23	3.50	2.26	2.42	10.75	2.49
遊び		6.95	4.58	5.24	3.67	11.97	2.38	1.25	1.30
発達	生活習慣	5.60	1.64	5.28	1.59	6.48	1.41	5.00	1.58
	運動機能	1.91	0.66	1.74	0.65	2.32	0.47	2.00	0.71
	知的発達	3.96	1.45	3.71	1.48	4.74	0.95	3.00	1.73

この対照図で明らかなように、歪みのある子は、友達に対して(＋)のかかわりは少なく(－)のかかわりが多い。保母に対しては、(－)のかかわりが多いことは当然であって、(＋)のかかわりの分布が、少ない方に分布してはいるが、(＋)のかかわりを多く持つ者もあり、（この型を示す者は、依存甘えが強く、又、(－)のかかわりのある子よりも指導による変化がおこり易いことが示唆された）

又、感情の表出，衝動の統制，情緒の安定のカテゴリーでは、表出の僅少な子－－これは対照群の障害児の示すパターンに似ている－－が歪みのない子に比して多いことは、これまた予想された通りであるが、表出得点の多い群の行動項目は、攻撃や怒り泣き、という行動によって占められていることが多い。－－この点、－

図１.感情の表出

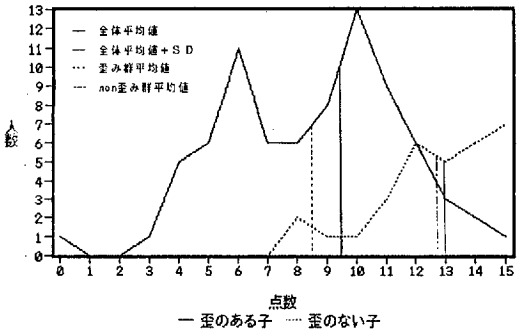


図２.衝動の統制

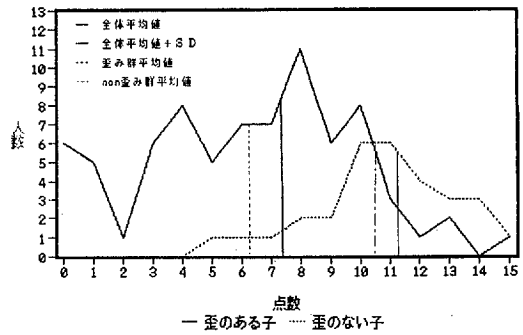


図３.情緒の安定

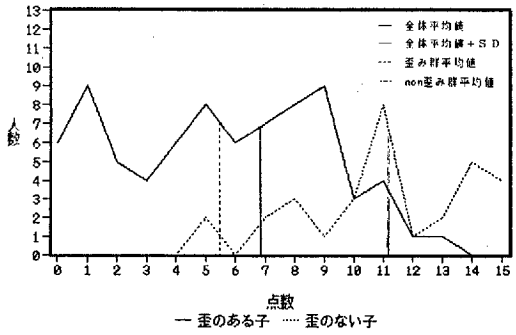


図４.固執性

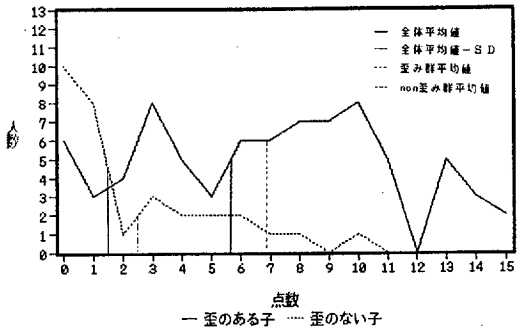


図５.攻撃性

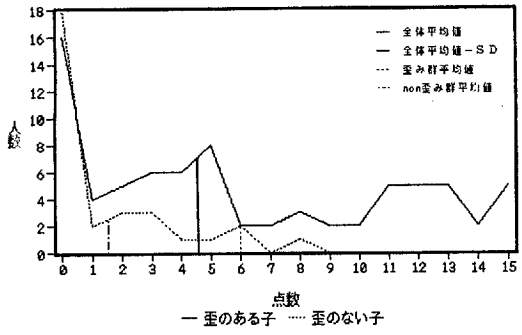


図６.依存・甘え

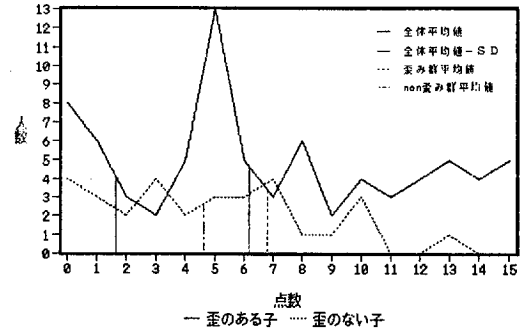


図７.保母とのかかわり（＋）

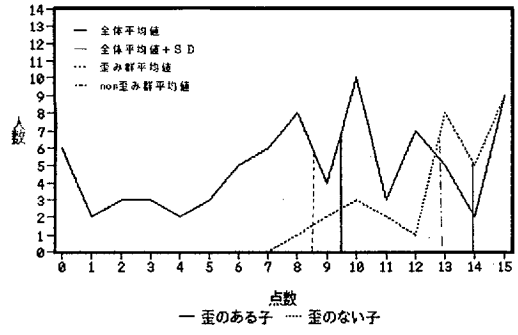


図８.保母とのかかわり（－）

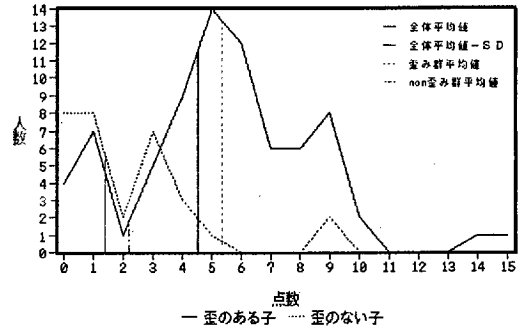


図９.友達とのかかわり（＋）

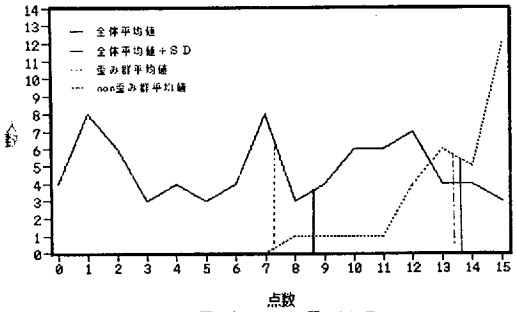
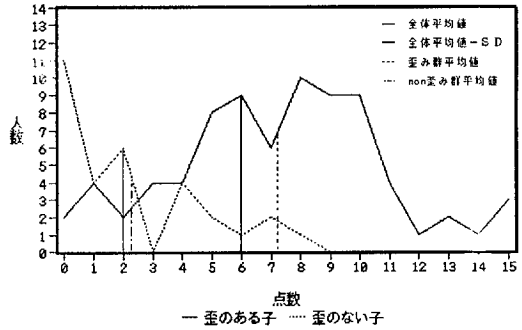


図１０.友達とのかかわり（－）



見整理項目が不適当という声も出たが、表出の有無、多少が、あとの指導と結びつくことを予想し、又その歪みの程度や質の把握に役立つことを見越して、あえてこのままとした。衝動の統制に、何人かの歪み群が高得点を取っているが、この場合は、表出の少ない行動と結びついていることが多い。情緒の安定でも、小数の高得点を得ている者があって、実は、このような子どもを一人一人具体的に、他の行動は？養育環境は？とその関連のあり方をたしかめていくことに、パイロットスタディとしての本研究の意味があると思われるのである。

攻撃性の得点の高い方への傾斜が歪みのある子の場合目に立つが、歪みのない子と同じような得点を示す子どもは、同じような得点を示す歪みのない子と、他項目得点との関係で大きく異なっている。即ち一例をあげると、歪みのある子の他の子へのかかわり（＋）得点も又少ないのに対して、歪みのない子は、むしろ、かかわり得点（＋）がより高得点に傾いている。という、質的な差を露呈する。

依存・甘えの得点は、これも少し前にのべた保母とのかかわり得点と逆行する傾向をもち、たとえ攻撃点が高く、他の子どもとの（－）のかかわり点が高くても、依存・甘え、保母とのかかわり（＋）点の高い子どもの指導は、比較的効果をあげ易いものであり、逆の得点群の方が、放置されたり、有効な変化をもたらす指導が、有効でない場合も出ているように思う。

固執性の得点は、これのみではその得点の高低によって、かかわりの歪みの判定のキイポイントとはなりにくい項目である。しかし、他の項目得点との関係の型は、指導のキイを探す一つの目安になし得る。即ち、固執性の強さが他の子どもとの関係の（－）高得点、保母との関係の（－）高得点と結びついた型をもつ場合、その子どものかかわりの歪みの問題は、対照群として少数の例を加えてみた障害児の示す行動パターンに似てくるのであって、指導の仕方も、攻撃強く甘えのあり、固執性は少ないパターンとはまるで変わってくるという、他の項目との関連のあり方で、その子のかかわりの歪みの質を把握する一つのキイポイントともなり得るのである。これらの型と養育条件との関係については後に述べる。

（２）　養育条件のパターン　養育条件のパターンを把握するに当たっては、まず中心に、親の養育態度－－生活習慣についてのかかわり。及び子と親とのかかわりの際の態度－－を、夫々、機械場面を与える，受容する，強化，指示する，阻止（－），阻止（＋），配慮，叱責，干渉，人格，の各項目をたてて量化したものをおき、これを歪みグループ、歪みのないグループで比較をしてみた。これを更に、家庭内条件としての、母の状態，父の状態，育児援助者の有無，周辺の環境，夫婦の関係の条件とからませ、又特記事項も参照して、その関係をとらえてみた。（養育態度の各項目は、当研究に先行する、岡及び今回の研究の協力者であるＡの臨床相談グループとの共同研究において、親の養育態度把握の試みとして設定したものを用いている）

ここで見出したことは、上記の養育態度－－直接、日常生活において子に接しているときの－－のカテゴリー別得点には、歪みグループとノン歪みグループとの間に、予想していたような大差がないことであった。むしろ、環境条件

の差は、夫婦関係，援助者の有無，四囲にうるさい人がいるか否か，又夫婦の国籍の差，という、親の養育態度の、このスケールの中に入ってこない条件の違いの中に存在することが示唆された。

そこで、この量化されていない特記事項のいくつかの例を、ここに資料としてつけ加えておく。（表8）

表８.家庭内特記事項

- 母は夜はクラブのママ、実家の母がオーナー。母親は親に反対されたが本児の父と同居し出産した。夫には生活力がなかったので実家へ帰ってくる。実家は自営業で経済的に心配ないが子育てには非協力的である。祖母の近くにすんでいるが気分によって受け入れてもらえたり邪魔にされたりする。
- 戸籍上離婚しているが父親に生活能力がなく、子どもをてこにして家に転がり込んで来ている。母は保育園の本児の送り迎え等に父を利用している。実際はこの子に悪影響であり追い出したいと思っている。
- 母が韓国人のため日本語が通じないことがある。
- 母子家庭　本児の父親は歯科医であるが本児の出生については知らない。母親は隣に住む祖母に食事洗濯等の家事を全面的に依存している。仕事の為、夜10時～11時の帰宅が多い。
- 父が生活能力がないため離婚。母の実家に戻るが祖父(64才)は脳血栓後後遺症で体が不自由。祖母の二人も母の電話交換手の収入で生計を維持している。
- 次男がくも膜下出血で倒れ入院。母がずっと付き添っている。兄は全く動けない。
- 父親の仕事の関係で両親の帰宅が遅いか留守がちである。
- 父母共行方不明。祖母はソ連人。
- 母親に神経的な病気があり、子の面倒がほとんどみられない。
- 母親は韓国釜山から東京に来る。日本語での日常会話は成り立つが、発音は不明瞭なところもあり、時にわからないこともある。又父親は日本人だが年をとってからの子ということもあって本児を溺愛している。
- 5才3ヶ月時、父母が離婚し、母と生別する。父はタクシー運転手で3日に1度の割合で夜勤があり、その日は2才年下の弟と2人で寝る。
- 夫から逃げて母方の祖母のところにいる。祖母が口うるさく面倒を見ている
- 両親共航空管制官のため入園まで祖父母の家に預けっぱなしであった。入園と同時に父母と暮らす。両親不在の夜は他児の家や祖母の家に泊まる。父親が厳格に型にはめようとする。
- 母親が弟出産後、病弱となる。
- 母2才2ヶ月時死亡。父はその後蒸発
- 父に頼まれ子どもを生んだので父に子育てを分担させている。母は教師で子どもを自分の考えにはめ込もうとする。

（３）　歪みのパターンと養育条件　一応、関係を見出すに便のようにと、両者ともに得点化を行って、その相関関係を求めてみたが、一つ一つの条件毎の関係についてよりも、ここではむしろ、両者の関係にキイとして働く条件は何かをみるほうが興味深い結果が得られた。

しかし、その前に一応、親の態度と対人関係とあらわれる行動の歪み特性との一般的関係を、図示しておくことにする。（図11～図15）即ち、この図は、親の養育態度の、受容，拒否，いいなり，叱責，しつけ放棄，の問題となる態度毎に、子どものかかわり行動特性の％を示したものである。

図１１.受容

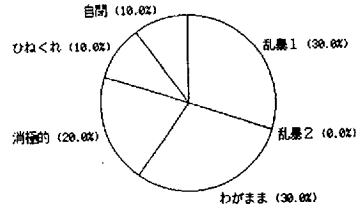


図１２.拒否

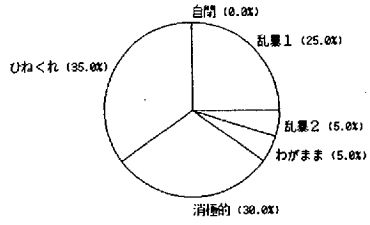


図１３.いいなり

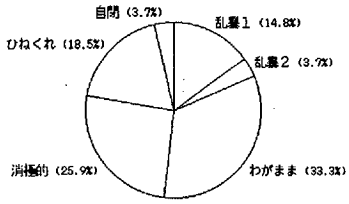


図１４.叱責

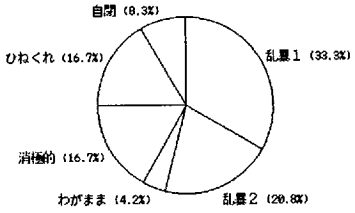
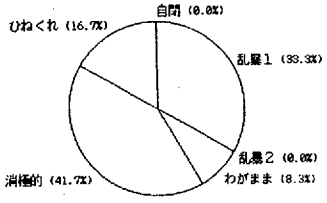


図１５.しつけ放棄



ここでかなり明瞭になったのは、拒否に対してひねくれ、消極的が多くなり、いいなりでは、わがままの増大がみられる。叱責の多さは、乱暴１に強く関係し、しつけ放棄は、消極的行動の増大につながるといえる。

次に、いま述べた関係のキイとして働く条件を考えてみる。即ち、(1)で述べた歪みのパターンのなかで、歪み群とノン歪み群の得点分布を比較した時、歪み群中、ある一行動特性においては、ノン歪み群と同じ得点をもつ者が、どのカテゴリーの中にもみとめられた。これを一方では、(1)にのべたように、他項目得点との関係でみていった場合も、歪みのパターンをきめる興味ある傾向が浮かび上がったのであるが、これを更に、養育条件との関係でみていった場合に、更に興味ある関係が見出されたのである。

即ち、単なる親の養育条件からみた場合、ノン歪み群とあまり変わらぬ得点分布を持つ親が、四囲の条件で問題のある環境条件の中に生活していた場合、これが、子どものかかわり行動の問題点となってあらわれることが多いということである。

攻撃性の強いこと、他の子どもとの愛着に(－)の行動が多いこと、衝動の抑制が出来ず、情緒が不安定である、という、かかわりの歪み行動の中核をなす行動を生み出すものが、直接の親が与えていると思っている養育の条件よりもむしろ、親そのものの人間関係の問題とつながっていることを見出したことである。

再び特記事項に戻って、この子どもの環境を見てみると、対人関係の歪みをもたらす条件としてあげられるのが、両親の国籍（父が日本，母が日本以外の時），父母の健康状態の不良，両親（夫婦）の関係が不安定，コミュニケーション少なく、育てる態度に大きなくい違いがあること，育児の援助者が、日常のみならず、緊急時もいない、という条件がある。育児に口うるさい人がそばにいる，又、親が家に閉じ込もりがちであること，等があげられる。

これに対して、同じような養育態度であっても、こどもの数が多い（3人以上）こと、は歪みをもたらせない条件として、他の条件の多少の問題を消去するようだし、他国籍者でも、両親共に他国籍であるとき、又父が他国籍でも母が日本人であるときは，他条件に対して(－)の効果をもたらしていないのである。

細かくみていくと、まだいろいろなことが見出されるのだが、あまり複雑になるので、要点だけをつまみ出して考察してみた。

この結果から云えることは、かかわりの歪みも、その表現行動の特性の組合せの差で、異なる型の歪みをもたらしていること．又親の養育態度は、これまで筆者らの見てきた、「母子相互関係と子の発達」の研究の際に有効であると見出した母の養育態度のパターンよりも、もっと親自体の人間生活、親自体の生活の仕方を規定することになる環境条件の方が、歪みに大きな関係をもつのではないかと思えること．ここから、子どもの対人関係の問題への相談や指導は、歪みの型と、それをもたらす環境条件のキイとなる問題点に、それを消去できないでも、たとえば、援助者を見つける等の、条件の緩和という実際の指導が、子どもの歪みパターンによって保母の行動の何に注意をするかの示唆と共に、必要であろうと思う。

又、当研究が大きなねらいを、現場の目と研究者の目の交叉、更にはケースの細かい分析とケース毎の条件の動かし易いものを動かしていくという指導の仕方を、どのようにして一般化とつなげていくかの試みにあるので、すぐに具体的な分析の手法を中心とすることがかえって問題であるとの認識の上にたって一応分析を試みたが、この結果に従って、もっと対象を増やしていけば、その時はじめて、本当の量的処理を中心に分析を行えるのではないかと思う。

終わりに、この班全体として設定した、リサーチクエスチョンの、歪みをもたらす養育条件との関係が見出された時、指導や改善の方策に実際につながるか、の問題に対しても、上記のような示唆が与えられたと思う。

最後に、この三年間の研究を、共に、非常な時間的な犠牲もはらって、終始係わり続けてきた、二つの研究グループの協力者の氏名をあげて、その協力を感謝したい。この両グループの協同がなければ、現場の中で、実際の子どもを、そのままとらえる研究は、目ざせなかったと思うからである。又、この対象児は、三年目の今、どんなふうに変化したかを、同一の方法で把握をはじめている。その間の保育や相談の作用を含めて、この時間をおいての実際の変化を比較してみることが、実際の具体的な指導の把握につながることと思っている。

文献

1) 岡宏子他：精神発達と母子関係Ⅱ～Ⅴ：日本教育心理学会，第23回総会論文集，昭和56年
2) 岡宏子他：精神発達と母子関係Ⅵ～Ⅸ：日本教育心理学会，第24回総会論文集，昭和57年
3) 岡宏子他：精神発達と母子関係Ⅹ～ⅩⅣ：日本教育心理学会，第26回総会論文集，昭和59年

記

Aグループ

大野澄子	聖心女子専門学校講師 日本赤十字保健部心理相談員
大島葉子	日本赤十字保健部心理相談員 発達臨床研究会研究員
比留間敦子	日本赤十字保健部心理相談員 発達臨床研究会研究員
村田朱美	発達臨床研究会研究員
菊井真理	発達臨床研究会研究員
谷川弥生	発達臨床研究会研究員
加藤のぞみ	発達臨床研究会研究員
杉本光子	発達臨床研究会研究員
尾関雅子	発達臨床研究会研究員

Bグループ

森玲子	荒川区西日暮里保育園園長
赤松かの子	北区役所保育課
足立千嘉子	杉並区善福寺保育園園長
石村直子	東京都心身障害者福祉センター（幼児科）
伊藤桃子	北区志茂南保育園園長
長田洋子	練馬区旭町保育園園長
小野尹麻	墨田区文花保育園園長
桑原勢津子	新宿区西落合保育園園長
鴻巣万里子	渋谷区幡ヶ谷第二保育園園長
小島寿美代	中野区中野保育園
是永睦子	北区桜田保育園園長
斉藤靖子	文京区本駒込保育園園長
佐藤佳代子	大田区大森北６丁目保育園
寒河江紀子	荒川区熊の前保育園
佐藤佳代子	大田区大森北六丁目保育園園長
佐藤玉枝	大田区大森北六丁目保育園
沢村昌子	江戸川区西小岩第二保育園園長
新城信枝	江戸川区西小岩第二保育園
武田律子	北区赤羽保育園
津谷信子	荒川区ドンボスコ保育園
鶴田一女	中野区野方ベビー保育園
鳥山せつ子	江戸川区南篠崎第二保育園園長
信坂雅子	荒川区西日暮里保育園
橋本芳子	荒川区原保育園園長
保坂純子	中央区かちどき西保育園園長
山元絵津子	江戸川区西葛西保育園園長

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:小児の対人関係の歪を、それをうみ出し進展させていく養育条件との関連においてとらえ、更にこの関連の仕方の把握から、歪みを是正し、健康な対人関係を育成する有効で具体的な実践に結びつく方途を見出そうと、この研究は進められた。分析の対象となったのは、養育相談に来所した親子、かかわりの歪みを思わせる保育園児及び、対照群としての健全グループ、と障害児群、計130組である。
各対象児について、まずケース事の詳細な症例分析から出発して、相互に共通したまたは形のことなる歪みの抽出、その型の分類、複雑な養育条件の類化と分析の作業を経て、両者の関連が求められた。その結果、歪みの行動が表出される型の差と、養育条件の特性及び四囲条件の関係の型との間には、いくつかの関係の型があることが見出され、この関係の型の把握が、同じく対人関係に問題があるとされた小児の行動改善や健康の育成を目ざしての、相談時の指導や保育の有効な方途と結びつくことが示唆された。